

氏名	清野 純子 (セイノ ジュンコ)
本籍	北海道
学位の種類	博士 (学術)
学位の番号	博甲第75号
学位授与の日付	2016年3月15日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
学位論文題目	看護師のレジリエンス育成に関する研究

論文審査委員	(主査) 桜美林大学教授	石川利江
	(副査) 桜美林大学教授	森和代
	桜美林大学教授	山口創
	筑波大学教授	沢宮容子

論文審査報告書

論文目次

第1章 序論	1
第1節 看護師の労働環境と健康問題	1
第2節 看護師のストレスに関する研究	6
第3節 ビリーフに関する研究	13
第4節 レジリエンスに関する研究	16
第2章 本研究の目的と構成	33

第1節	本研究の目的	33
第2節	本研究の意義	36
第3節	本研究の構成	37
第4節	基本概念の定義	40
第3章	看護師特有のビリーフ尺度の作成【研究1】	41
第1節	目的	41
第2節	予備調査	43
第3節	本調査	48
第4節	考察	54
第4章	看護師特有のビリーフと個人特性	
	およびストレス反応との関係【研究2】	56
第1節	目的	56
第2節	方法	58
第3節	結果	61
第4節	考察	69
第5節	今後の課題	75
第5章	看護師のレジリエンスの構成要素の検討【研究3】	77
第1節	問題と目的	77
第2節	方法	79
第3節	結果	81
第4節	考察	89
第5節	今後の課題	93
第6章	レジリエントナース尺度の作成【研究4】	94
第1節	目的	94
第2節	方法	96
第3節	結果	99
第4節	考察	107

第7章 看護師のレジリエンスと個人特性との関係【研究5】	110
第1節 目的	110
第2節 方法	112
第3節 結果	114
第4節 考察	127
第5節 今後の課題	135
第8章 看護師のレジリエンスとその影響要因	
および ストレス反応との関係【研究6】	136
第1節 目的	136
第2節 方法	137
第3節 結果	140
第4節 考察	145
第5節 今後の課題	147
第9章 看護師のレジリエンスとピリーフが自尊感情	
および精神的健康に及ぼす影響【研究7】	148
第1節 目的	148
第2節 方法	150
第3節 結果	154
第4節 考察	158
第5節 今後の課題	160
第10章 実地指導者のレジリエンス向上のための教育研修の試み	
— レジリエンス, 自尊感情, ストレッサーの変化と研修からの学びの特徴	
および実地指導者としての不安 — 【研究8】	161
第1節 目的	161
第2節 方法	164
第3節 結果	169
第4節 考察	184

第5節 今後の課題	197
第11章 総合考察	198
第1節 本研究の結果の要約	198
第2節 本研究の考察	202
第3節 今後の課題	214
第4節 結論	216
引用文献	219
謝 辞	230
APPENDIX	232

論 文 要 旨

日本の医療の現場は、医療内容の高度化、患者の重症化や高齢化などによる看護師の疲弊が進み離職問題が深刻化している。本論文はそのような看護師の現状を踏まえ、様々なストレス状況を経験してもバーンアウトせずにキャリアを継続していくためには何が求められるのかについて検討したものである。そのためにビリーフとレジリエンスという2つの観点を統合し、看護師の教育につなげようという論文である。

本論文は11章から構成されている。まず、序論では看護師のおかれている現状の問題が労働環境と健康問題の観点から検討されている。看護師のストレスに関する研究はこれまでも数多くなされてきたが、それらを経験年数や役割といった側面からまとめている。ストレスとの関連要因であるビリーフについても概観し、看護領域では新たな概念であるレジリエンスについて測定尺度を中心に詳細なレビューを行っている。第2章では本論文の目的と構成が示され、各研究の位置づけを明確にしている。第3章以降は各論に入り、調査研究に基づく結果を丹念に検討している。第3章では看護師特有のビリーフを評価できる尺度として、4因子20項目の尺度が作成され、その妥当性・信頼性の確認が行われ、続いての第4章でその尺度と個人的特性やストレス反応との関連性が検討されている。その結果、作成された看護師特有のビリーフ尺度は今後の看護教育に用いることのできるものであることやビリーフがストレス反応に影響することが示された。しかし、その影響の程度は有意ではあるが大きくはなく、他の要因も検討すべきであろうとされ、その一つがレジリエンスというポジティブな要因を組み入れた検討であるとされた。第5章で看護師のレジリエンスの構成要素の洗い出しを自由記述回答に基づいて行い、第6章のレジリエントナース尺度の作成につなげている。レジリエントナース尺度は5因子構造であること、妥当性・信頼性のあることが確認された。第7章では、作成されたレジリエントナース尺

度の下位尺度について看護師の職位や経験年数などの影響の違いを明確にし、単純な正の相関ではないことが示された。第8章は、ストレスコーピングも含めた検討を行い、ストレス低減の方法として従来のストレスマネジメント以外にレジリエンスの強化によってもストレス低減につながられることを示している。第9章では、ビリーフ、レジリエンス、ストレスコーピング、組織内自尊感情などを含めて精神的健康に及ぼす影響を検討した統合的モデルを検証している。その結果、精神的健康に対してビリーフよりはレジリエンスの効果が大きいことが確かめられた。サポート体制の充実によりレジリエンスを高めることは、組織内自尊感情や自尊感情を高め、結果として精神的健康を高められると結論づけている。第10章は、レジリエンス向上を目的とした介入研究を行った結果をまとめている。看護師の中でも後輩への指導を初めて担当する実地指導者を対象として全5回の研修を行ない、レジリエンスの変化をもたらす要因を検討している。以上の結果を踏まえ第11章総合考察では、個々の看護師が自らのビリーフへの気づきを増し、レジリエンス獲得と向上にむけた支援が看護師の心身の健康の保持や離職防止につながられる可能性を述べ、残された課題について論じている。

これらの研究に加え、146件の引用文献、Appendix のレジリエントナース尺度、看護師特有のビリーフ尺度が提示されている。

論文審査要旨

学位請求論文提出後、主査と3名の副査による審査が行われた。本論文は看護師のバーンアウトを予防するだけでなく成長を促す教育の在り方について、ビリーフとレジリエンスという概念を用いてアプローチした研究として高く評価された。その審査過程では、結果をまとめて分析することで適切な結果を導き出せるのではないかという指摘や実践指導者を対象とした介入研究の位置づけを明確にする必要がある、用語を統一すること、今後の課題についてさらに説得力のある論述を進め考察を深める必要があるという意見が出された。これらの指摘や意見に対して丁寧な加筆修正が行われた結果、本論文は看護師のレジリエンス教育を扱った研究として意義あるものであり、学位論文としての水準に達していると認められた。本論文は、関連する先行研究について詳細な検討を重ねた後、多数の看護師から得られた十分なデータに基づき粘り強い検討がなされている。健康心理学上の独創性が認められ、主査、副査全員一致して、健康心理学の学位論文として合格であると判定した。

口頭審査要旨

公開での最終審査は、30分間の論文概要の発表、30分間の質疑応答、非公開での主査・副査による合否判定が行われた。パワーポイント資料が準備され、研究の概要につい

での説明がなされた。質疑においては、従来の研究における類似の評価方法との相違は何か、看護師という厳しい職場環境から生起するストレスに対する有効な介入をどのように考えるかといった質問が重ねられた。それらに対し従来の研究で用いられてきた評価方法には含まれていない思考という観点を含めた尺度となっている点に本研究で開発された尺度には特徴があるといった回答をはじめ今後の課題や研究の発展的方向をふまえた適確な回答がなされた。審査者からは、看護師の離職防止やキャリアアップに対するレジリエンス向上のための教育方法について今後さらに研究を深めてほしいという要望があった。最終的に学位論文の口頭審査は審査委員の全員一致で合格であると判定された。